

# 学校生活における支援

和歌山県立和歌山ろう学校  
教育支援部

# 聞こえにくい障害になると

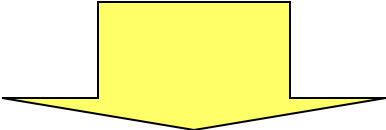
---

聞きもらし  
聞き間違いがおこる

危険に気づきにくい

相手に伝わりにくい

日常生活に工夫が必要



わかってもらいにくい障害

# きこえの課題に気づくとき①

行動面：  
おちつかない  
きよろきよろする  
聞き返しが多い  
状況判断で動いている  
顔をじっとみる  
集団での行動が遅れる  
静かな場面では会話が理解できているが、  
まわりがざわめくと理解できにくくなる

学習面：  
理解がゆっくりとしている  
国語や社会が苦手なことが多い  
書き言葉に間違いがある  
記憶力が弱い  
忘れ物が多い

# きこえの課題に気づくとき②

言語面： 語彙が少ない  
発音に誤りがあることがある  
助詞の間違い  
聞き間違うことがある

生活面： 呼んでも気づきにくい  
テレビの音が大きい  
話す声が大きい

難聴の子どもが毎日の  
学校生活で直面すること

---

# (1) 学校生活で音が聞き取りにくい場所・時間

---

## ① 騒音の多い教室

音楽室

体育館・講堂

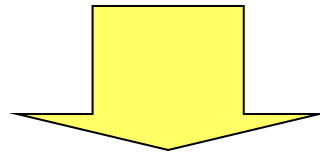
運動場

## ② 休み時間

給食時間

掃除の時

下校の時



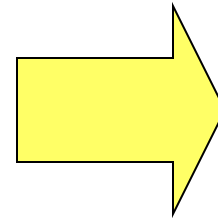
解放された時の声や にぎやかな大声

## (2) 教室では

①先生が黒板に向かっている時  
生徒の間を廻っている時

②友達の発表は耳で聞き取るのは難しい  
口元を読むのも難しい

③初めて聞くことばを耳で聞き取るのは難しい



黒板の文字や  
ノートテイクが  
手掛かり

# (3)子ども同士の関係では

## 〈班活動〉

- ①複数の友達が同時に話は困難
  - 話すスピードも速いので会話に入ることが困難
  - 班の相談内容やルールの理解が難しい

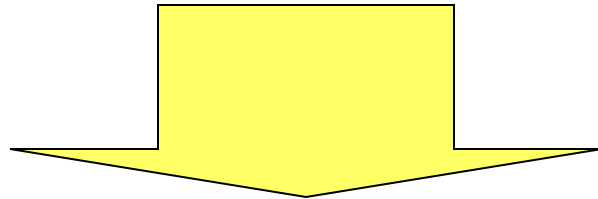
- ②後方や離れたところからの呼びかけ
- ③友達との会話では2回以上聞き返すと無視されることが多い



# 補聴のてだて

---

- 静かな環境にする
- 音源に近づく
- 音を大きくする
- 補聴機器や人工内耳を使用する



☆補聴器や人工内耳は万能ではありません

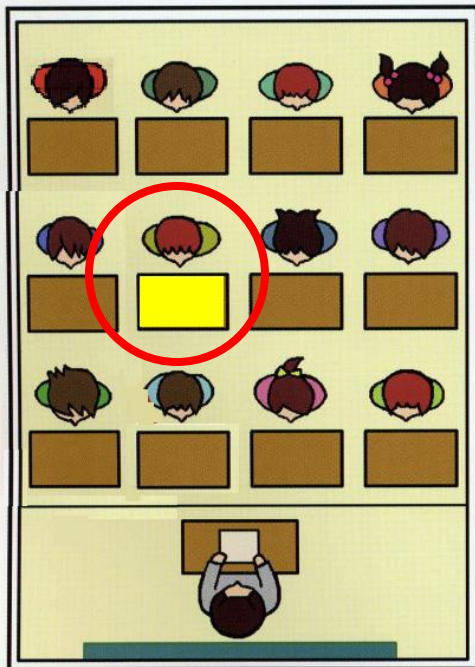
# 学校における難聴児への配慮

# 学習環境について

補聴器の活用 → 電池や音のチェック

座席の位置 → 前から2・3列目 先生の顔や口元が見えるように

教室を静かに → テニスボール 消音テープ ドア・窓の開閉



# 話をするとき

---

- ゆっくり、大きめの声で話す
- 正面から目を合わせて話す
- 注意を向けてから話す
- 具体的に、簡潔に話す

# 授業中の支援について

---

（視覚を用いた支援）

- ◇教科書（プリント、ドリルなど）を用いる
- ◇隣の友達を使って、指示の確認
- ◇見せる、指さす
- ◇実物投影機や拡大コピーを用いる
- ◇板書はシンプルに「キーワード」など
- ◇机間巡視

# 体育での指導

## 体育館や水泳

- ・話するとき → できるだけ近く、真正面から
- ・説明のとき モデルを示す
- 視覚機器の活用 → 字視覚情報、ホワイトボード、  
絵やイラストなど





図2-1-2

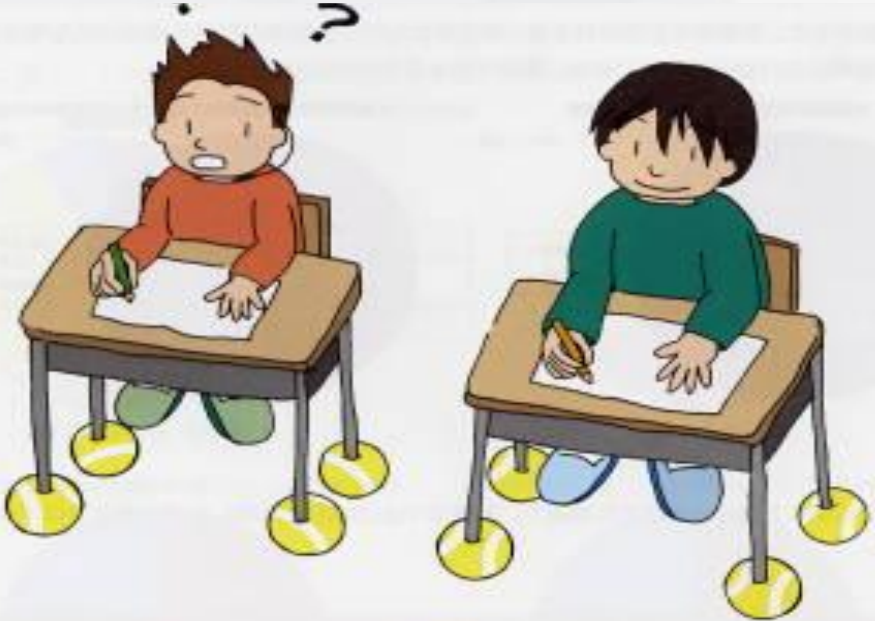


図2-2-1

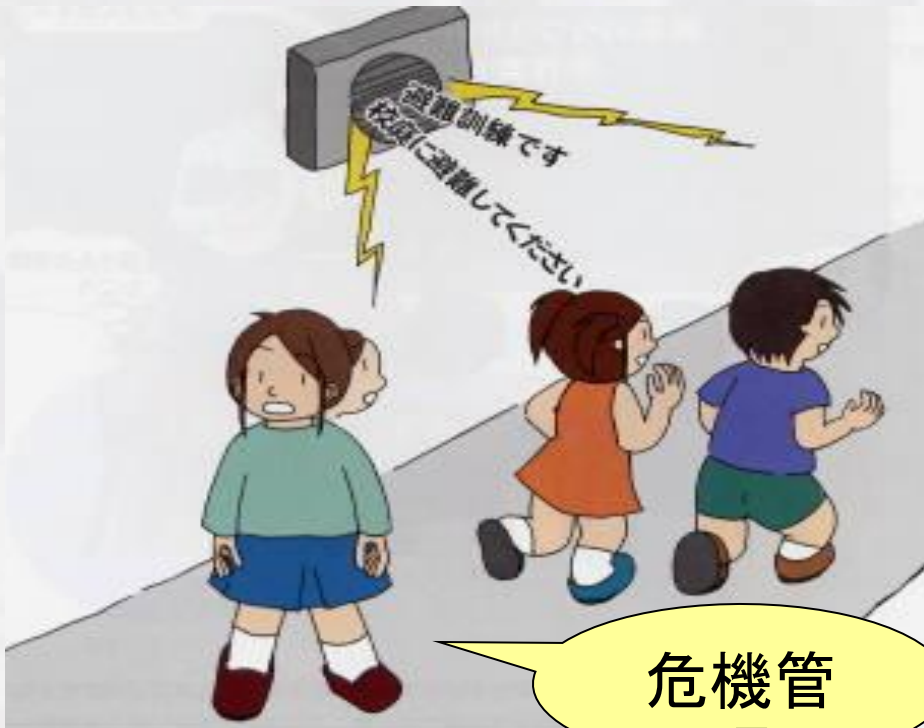


図2-3-4

危機管理

# 「難聴児への話し方・授業の理解を深める工夫」

---

1. 話題を知らせて、はじまりと終わりを意識して話す
2. ゆっくり、しかし自然に話す
3. いつも口が見えるようにして話す
4. 一度に通じない時は、別の言い方で繰り返す
5. 表情や身体表現、指文字、手話を使って豊かに話す
6. 視覚的な手がかりを多くつかって話す
7. 一度に複数の人が話しかけない。発言者は拳手して位置が分かるようにする。
8. 「はい」とうなずいてくれても、もう一度確かめる
9. 周囲の騒音を少なくして、近づいて話す
10. 聞きながら書けないので、書く時間は別に確保する
11. FM補聴器の利用
12. 休憩時間等の人間関係・言語活動



# 耳の健康管理

- 中耳炎を繰り返す
- 滲出性中耳炎
- おたふく風邪にかかったことがある
- 鼓膜をやぶったことがある など

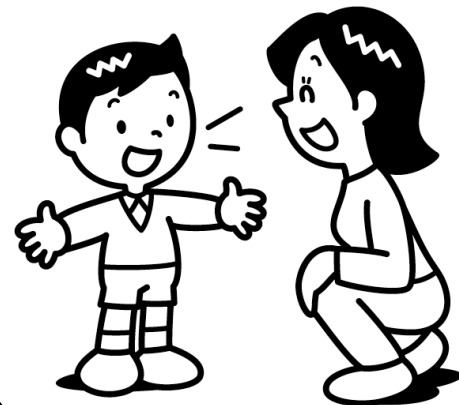
耳鼻科を受診して、きこえについて相談しましょう

# きこえとことばの 教育相談ご案内

☆家庭や保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校で

- ・ 出産時に新生児聴覚スクリーニングでリファーマーといわれた
- ・ よんでも振り向かないことがある
- ・ 聞こえているのかどうか、よくわからない
- ・ 発音がはっきりしない
- ・ ことばが遅い

もし思いあたることがある時は、一度お気軽にご相談ください。



乳幼児、小学生、中学生、高校生の相談にも対応させていただきます。

聴覚に障害があっても、早期からの適切な手だてと大人の関わりによって、聴覚を活用し、ことばの発達を促すことができます。

☆毎週水曜日、午後1時30分より予約制で行っています。（相談は無料です）

# お問い合わせ

〒640-8272

和歌山市砂山南3丁目1番73号

和歌山県立和歌山ろう学校  
教育支援部

TEL 073-424-3276  
FAX 073-424-0310

## 参考文献・資料

- ・「難聴児・生徒理解ハンドブック」 学苑社  
《通常の学級で教える先生方へ》
- ・「きこえにくいお子さんのために・・・」  
《聴覚障害サポートハンドブック 軽度・中等度難聴編》  
全国早期支援協議会編
- ・「学校生活ときこえ」  
《教師のためのガイドブック2009年版》  
**PHONAK**
- ・「難聴児童生徒へのきこえの支援」  
補聴器・人工内耳を使っている児童生徒のために  
財団法人 日本学校保健会